

夏の風物詩 御所沼のヒシ刈り

初夏から秋にかけて御所沼の水面をおおう水草にヒシがあります。ヒシは、^{ひしがた}菱形の語源となった水草で、葉は菱形をしていて実は食用になります。昔の御所沼では、地元の人が船を浮かべて菱の実を取ったりしていたことでしょう。現在では、食用に実を取ることはありませんが、^{はんしょく}繁殖したヒシをそのままにしておくと腐ってヘドロの原因になってしまいますので、夏になるとヒシ刈りを行っています。

この作業には、近在の方から提供された和船を使用しています。この和船は、^{ひらぶね}平船とも言いますが、底の平らな平船は、安定性あってこうした作業に向いています。御所沼の夏の風物詩、ヒシ刈りをどうぞご覧になってください。



ホツツケ田にも花が咲く

どろんこクラブが大切に育てているホツツケ田のお米ですが、やっと花が咲き出しました。



を見ると穂のサヤの脇から白い小さな花が出ているのがわかります。この後に授精^{じゅせい}をしてサヤがふくらんでお米になります。あと1ヶ月もすると稲刈りですね。

ハス花が終わって...

^{ゆうび}優雅な大賀蓮の花が終わってからのハス園の主役は、^{かたく}果托です。花が咲いている時には、花弁の中で円錐状に黄色く ^{かたく}ふくらんでいます。この時は花托と書きます。花弁が落ちて、受粉した種子がふくらんでくるとカタクは、花托から果托^{かたく}に変化します。最初は、緑色の^{やわ}柔らかい玉たったハスの種もやがて黒く固い1センチくらいの玉になります。この強固な殻^{から}を持つハスの種は、大賀蓮のように泥の中で2千年もの間、眠^{よみがえ}って現代に蘇ることもあるのです。

